

Monthly Report

Vol.79 / 2012 Nov.

仙台大学主催事業「スポーツシンポジウム2012」



11月26(月)、せんだいメディアテーク(仙台市青葉区)で、仙台大学主催事業「スポーツシンポジウム2012」(主催:仙台大学/仙台市/河北新報社)を開催しました。同シンポジウムでは、約200名の方々が『ロンドンオリンピックを振り返って～「観る」から、「する」、「支える」へ』というテーマの講演や議論に耳を傾けました。

今回のシンポジウムでは、基調講演として、スポーツジャーナリストの増田明美氏が「自分という人生の長距離ランナー」と題して講演し、その中で、自らがスポーツを「する」立場から、「支える」立場になりたいと思った瞬間等について、経験にユーモアを交えながら話されました。

続いて、パネルディスカッションが行われ、増田明美氏、清水義明氏(仙台市スポーツ振興課長)、庄子忠則氏(河北新報社スポーツ部長)、仲野隆士教授(仙台大学体育学科長)をパネリストにお迎えし、コーディネーターは山内亨教授(仙台大学スポーツ情報マスメディア学科長)が務めました。

パネルディスカッションでは、アスリート(増田氏)・行政(清水氏)・報道(庄子氏)・教育(仲野教授)のそれぞれの立場から、ロンドンオリンピックを通して、「観る」から自分が「する」、そして「支える」というテーマについて活発な議論がなされました。

ご来場頂きました皆様、スポーツシンポジウム開催にご協力を賜りました皆様に御礼申し上げます。

なお、本シンポジウムの詳細は、12月20日付河北新報朝刊に掲載される予定です。

目次

仙台大学主催事業「スポーツシンポジウム2012」	1
全日本少年柔道育成会主催の東北地区合同練習会	2
第5回国際スポーツ情報カンファレンス	3
仙台大学「管理栄養士合格修練会」第4回受験者激励会	4
亘理町公共ゾーン仮設住宅に、「ふれあい公園」がオープン	5
「東北楽天ゴールデンイーグルス」の8選手が仙台大で体力測定	6
OB・OG・学生の活躍	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

フィンランド・カヤーニ応用科学大学からの留学生



左から朴澤学長、ヤスミン・コーホーネンさん、ラウラ・ポイコーネンさん、ハンナ・キビックさん、鎌田国際交流センター長、渡邊事業戦略室長

11月2日（金）、国際交流協定校のフィンランド・カヤーニ応用科学大学から短期交換留学生3名が、鎌田国際交流センター長、渡邊事業戦略室長と共に学長室を訪れました。ヤスミン・コーホーネンさん、ラウラ・ポイコーネンさん、ハンナ・キビックさんの3名は、同大スポーツ&レジャーマネジメント学科の3年生で、11月27日（火）まで本学で学び、12月2日（日）にフィンランドに帰国する予定です。

「日本文化と日本語を学びたい。剣道の授業を楽しみにしている。将来の職業についてはまだ考えていないが、家族と家を持ちたい」（ヤスミン・コーホーネンさん）。「日本文化と武道を学びたい。将来は、海外で活躍できるスポーツインストラクターになりたい」（ラウラ・ポイコーネンさん）。「日本文化を学び、書道の授業を楽しみにしている。将来は、水泳のインストラクターになることを目指している」（ハンナ・キビックさん）。とそれぞれの思いを語ってくれました。

全日本少年柔道育成会主催の東北地区合同練習会

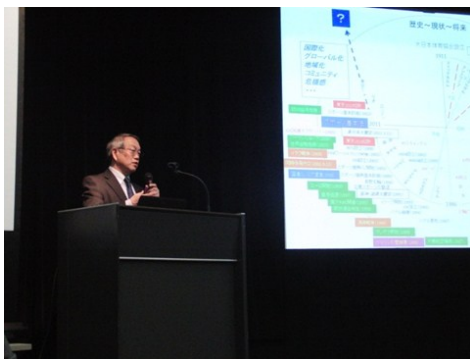


11月4日（日）、仙台大学柔道場で全日本少年柔道育成会主催の東北地区合同練習会が開催され、岩手・山形・宮城・福島の4県から300名を超える柔道少年・少女が集いました。

同練習会は、柔道の活性化と団体相互の連携・交流を深めることを目的とし、本学での開催は今年で連続4回目（それ以前は山形県で実施）となりました。同練習会の事前準備及び当日運営は、全て柔道部の学生主体で実施されました。

柔道部の南條充寿総監督は「学生達は、運営側の準備の大変さ、教えること・伝えることの難しさが実感できたのではないかと。このことを競技現場で生かしてほしい」「とにかく学生達がよく頑張ってくれた。今後は新しい工夫などを実践してみたい」と今回の感想と抱負を話されました。また、柔道部の栗野颯あわのけんさん（現代武道学科2年一羽黒高校出）は、「子ども達と触れ合うことができ良かった。教えることの難しさと指導力を学ぶことができた」「自衛官を目指している。この貴重な経験を将来に生かしていきたい」と熱く語ってくれました。

第5回 国際スポーツ情報カンファレンス



日本スポーツ振興センター理事長
河野一郎氏による基調講演



日本スポーツ振興センター課長
和久貴洋氏による特別講演



シンポジウム（右から白井氏、山下氏、
松井氏、土生氏、阿部篤志講師）

仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所は11月4日（日）、せんだいメディアテーク（仙台市）にて第5回国際スポーツ情報カンファレンスを開催しました。今回は「London2012を通してこれからのスポーツを考える～スポーツの推進を通じた社会の発展と情報・制度・人～」と題し、日本スポーツ振興センター（JSC）の河野一郎理事長をはじめ、和久貴洋氏、白井克佳氏、山下修平氏（以上、JSC）、松井陽子氏（日本オリンピック委員会）、土生善弘氏（宮城県教育庁）の6名を講師としてお招きし、スポーツのこれからを考えました。

基調講演では河野一郎氏より、これからのスポーツを考えていくうえで3つの視点（時間軸、グローバル、国家）が必要であること、続いて和久貴洋氏より「大学政策とス

ポーツ政策の接点」という題での特別講演を、そして最後に研究所の阿部篤志研究員がコーディネーターとなり、白井克佳氏、山下修平氏、松井陽子氏、土生善弘氏が登壇し、情報戦略の重要性、子供たちの早期才能発掘・育成の重要性、宮城県におけるスポーツ推進計画に描かれる新たな方向性をお話頂きました。

今回のカンファレンス、参加者もスポーツ行政、スポーツ団体、大学など、北海道から和歌山まで約100名の方々にご来場頂き、国、地方、スポーツ組織が抱える問題、大学の課題など有意義な情報をお持ち帰り頂けたと確信しております。

<報告：スポーツ情報マスメディア研究所>

秋の健康収穫祭



運動プログラム「棒体操」の様子

11月4日（日）の9時30分～13時30分に、槻木体育館と下町集会所で、本学地域健康づくり支援センター・健康づくり運動サポーター事業及び同サポーター上級者向け実習の一環として、本学の学生4名が企画した“知って得する！やってみよう！”「秋の健康収穫祭」が開催されました。同祭の運営は、小池健康福祉学科長、岩垂・柳沢・横山・齋藤まりの各新助手、健康づくり運動サポーターの学生35名によって行われました。

槻木の地域住民の方々を対象に、①健康について理

解し運動意欲を高める場・②無理なく継続して行える運動の体験の場・③老若男女が関わり楽しめる場という3つのコンセプトを中心とし、参加者を募った結果、95名の方々にご参加下さいました。同祭では、「健康講和」・「運動プログラム」・「体力チェック」・「New Sports フェスティバル」が行われました。

おくやまいこ

「秋の健康収穫祭」を企画した奥山愛子さん（健康福祉学科4年一木造高校出）は、「無事終わることができ、正直ホッとしている。運営する側の立場となり、勝手が

まつうらりさ

違うことに気づいた。良い経験になった」、松浦里紗さん（健康福祉学科4年一福島西高校出）は、「子どもからお年寄りまでが、楽しんで見ることができて良かった。怪我なく、事故もなく、良い雰囲気の日

しかまひろ

だった」、四釜千尋さん（健康福祉学科3年一村田高校出）は、「参加して下さった方々の真剣さを感じた。4名で頑張ってきた企画なので、絶対成功させたかった。達

まつぼらけん

成感を感じられたのが良かった」、松原健人さん（健康福祉学科3年一旭川大学高校出）は、「後輩に指導する難しさを知った。今後も健康づくり運動サポーター事業に積極的に参加して、頑張っていきたい」と意欲的に話してくれました。

名取市立みどり台中学校の生徒15名(1年生)が来学

11月8日(木)に、総合学習の一環として、健康福祉分野の研究・学習内容の見学を行いました。素直で明るい、よい子ばかりでした。介護予防教室の見学では、参加者の高齢者にしっかりと挨拶が出来ました。本学第三体育館の体操競技場では、オリンピックのテレビ中継で見た鉄棒やつり輪、トランポリンにチャレンジしました。学生食堂(「なちゅら」)では、メニューの前で10分近く何を食べるか悩む生徒もいましたが、美味しく食べられたようです。輝く目をした子どもたちをみて、「将来は仙台大学の志望も考えてくれるのかな」とついつい期待してしまいました。

<報告: 高崎義輝(准教授/生涯学習センター委員)>



仙台大学「管理栄養士合格修練会」第4回受験者激励会



11月11日(日)に仙台大学管理栄養士合格修練会主催による第4回受験者激励会(菊地志織総合実行委員長、服部恵未子実行委員長)が開催されました。毎年、本会に参加された卒業生(受験生)にとって、試験本番に向けた勉強の最後の追い込みをかける絶好の機会となっており、高い合格率を誇っています。

今回はOB合格者4名(高橋愛さんたかはしあい(豊里小学校(教員補助) - H21年運動栄養学科卒 - 郡山女子短期大出(編入学) - 佐沼高校出)、米澤雄一郎さんよねざわゆういちろう(LEOC(栄養士) - H21年運動栄養学科卒 - 札幌清田高校出)、渡辺祥子さんわたなべしょうこ(岩沼小学校栄養教諭(臨時) - H21年運動栄養学科卒 - 明成高校出)、真木瑛さんまきあきら(仙台大学新助手 - H22年運動栄養学科卒 - 谷地高校出))から体験談講演をしていただきました。

東京アカデミーの小田嶋講師からは、時間の作り方、勉強方法、模擬試験の活用方法等々、合格のための勉強の秘訣を教えてくださいました。OB合格者の方々からは「母校仙台大の旧友たちと励まし合うことが力となった。自分流の勉強スタイルを最後まで貫くことです」等々のお話を頂きました。

また、激励に駆けつけてくださった丹野准教授からは、「資格を取得すれば仕事の幅が広がります。管理栄養士として充実した仕事ができるようにがんばってください。」というメッセージを頂きました。

本学卒業生の栄養士関連分野におけるさらなる飛躍のため国家試験合格をサポートするために発足された合格修練会も今年で四年目となりました。「発足から着実に合格実績を上げることができてこられたのも、皆様のご理解ご協力が広がったからこそです」と本会発起人であり主管を務める早川講師から感謝が述べられた。いよいよ二か月後には、本会の名物イベントの一つになりつつある第4回国家試験直前対策合宿講座が平成25年1月13日(日)、14日(月・祝)に仙台大学を会場に開催されます。

<報告: 仙台大学管理栄養士合格修練会>

文部科学省委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業 (スポーツ・レクリエーション活動の支援)」 亶理町公共ゾーン仮設住宅に、「ふれあい公園」がオープン



11月11日(日)に、亶理町の公共ゾーン仮設住宅に隣接する「ふれあい公園」内にて「秋を楽しむ会・ふれあい公園オープン式」が開催されました。あいにくの曇空でしたが、仮設住宅に住む多くの方々が参加し、はらこ飯やあら汁に舌鼓をうち、歌やよさこいに楽しい時間を過ごしました。

仙台大学は、文部科学省委託事業である「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(スポーツ・レクリエーション活動の支援)」(実行委員会委員長：丸山富雄副学長)の一環として、各種のレクリエーション用具の寄贈とともに公園内でのゲーム・レクリエーションの支援活動を行いました。

当日は、仲野隆士体育学科長(実行委員会プログラム担当副委員長)を中心に、学生16名がボランティアスタッフとして、子どもから高齢者まで幅広い対象者を相手に、一日ゲームやレクリエーションで楽しみました。この「ふれあい公園」は、仮設住宅で遊び場の限られた子ども達に、思い切り身体を動かせる場を提供してあげたいという「公共ゾーン仮設住宅第3集会所ふれあいの会」が中心となり、町有地1,000平方メートルをボランティアの手で整備をして完成させた公園です。仙台大学の学生は、この公園の企画段階から整備・オープン式まで長期的な支援活動を行ってきました。

今後は、定期的・継続的にふれあい公園に学生を派遣し、子ども達の遊び相手として、スポーツ・レクリエーション活動の支援を行う予定です。

【支援地域・団体】

気仙沼市・なんでもエンジョイ面瀬クラブ、南三陸町、女川市・ふれあい健康クラブ、石巻市・石巻スポーツ振興サポートセンター、七ヶ浜町・アクアゆめクラブ、多賀城市・多賀城市民スポーツクラブ、富谷町・遊悠クラブ、名取市・名取市体育協会、亶理町、角田市・スポーツコミュニケーション角田、山元町・ホップステップ

<報告：馬場宏輝(准教授/生涯学習センター長/実行委員会マネジメント担当副委員長)>



「仮設住宅からの移転は早くてあと1年にかかる見通しです。みんなが暮らしやすい町になるよう、そして震災前よりも発展できる亶理町となるよう地元出身者としても復興の支援となる活動をしていきたいと思っています。」(写真中央：さいとうりかこ)

齋藤梨花子さん(体育学科・スポーツコーチングコース馬場研究室4年一名取高校出)「いつも温かく迎えてくださる亶理町の方々。地元亶理高校の生徒たちも公園整備の土運びをはじめ子供たちと触れ合うなど積極的にボランティアに関わってくれています。人の輪をむすぶ事業なのでこれからも継続的

支援をしていきたいです。」(写真右：猪狩薫さんいがりかおる)
(体育学科・スポーツマネジメントコース馬場研究室3年一福島・桜の聖母学院高校出)「地元住民の方々の心意気に心打たれます。日頃仮設住宅で窮屈な思いをされている方も、開放感のある公園で、レクリエーション活動やスポーツを通して楽しい時間をすごしていただければ嬉しいです。」(写真左：かまかみまりえ)

鎌上万里恵さん(体育学科・スポーツマネジメントコース馬場研究室3年一山形北高校出)とそれぞれの活動を通じて感じている感想を話してくれました。

フィンランドからの留学生が乗馬演習



11月12日（月）、ゆと森倶楽部（宮城県刈田郡蔵王町）において、11月2日（金）～国際交流協定校のフィンランド・カヤーニ応用科学大学から短期交換留学中の3名の留学生が、全学教養演習「乗馬と馬術」の授業で乗馬を行いました。この授業のねらいは、動物(馬)を介して、コミュニケーション能力・スキルを向上させることにあります。コミュニケーションの原点は言葉ではなく、内面から出る態度や

気持ちであり、誠意や愛情を持って接しないと動物には伝わりません。大学を卒業後、職業人になってからも、内面から出たものを相手に伝えるコミュニケーション能力・スキルを身に付けた人間として成長することがこの授業の最終目標で、本学現代武道学科の伊藤重孝教授（元皇宮警察の護衛官、元警察大学校教授）が、今年度後期(10月～3月)からはじめて全学教養演習の授業に組み込んだものです。

乗馬を終えた留学生達は、異口同音に「馬と触れ合うことができ、心が癒された。想像以上に気持ち良く、楽しかった。とても良い経験になった」と話してくれました。

留学生3名は同大スポーツ&レジャーマネジメント学科の3年生で、11月27日（火）まで本学で学び、12月2日（日）にフィンランドに帰国する予定です。

「東北楽天ゴールデンイーグルス」の8選手が仙台大で体力測定



脚筋力を測定する柘田慎太郎選手



最大酸素摂取量を測定する釜田佳直選手

11月23日（祝・金）、プロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」の柘田慎太郎選手・神保貴宏選手・武藤好貴選手・榎本葵選手・勸野甲輝選手・木村謙吾選手・釜田佳直選手・三好匠選手の8選手が、一年間にわたるトレーニングの成果を検討することを目的に本学を訪れ、本学の最新機器を利用して、「脚筋力」・「皮下脂肪厚」・「最大酸素摂取量（全身持久力の指標）」の測定を行いました。

測定指導には、本学の高橋弘彦教授（専門分野：運動生理学）及び竹村英和講師（専門分野：運動生理学）、高橋陽介助教（専門分野：アスレティックトレーニング）があたり、本学学生も補助を行いました。

測定を終えた柘田選手は「今まできちんと脚筋力の測定をしたことがなかった。正確な数値を知ることができて良かった。脚筋力のバランスが良いことが肉離れ等の怪我の予防につながることを知った。今後も測定結果を活用していきたい」。また、釜田選手は「仙台大での体力測定は今回で2回目。前回は思い出しながら行った。自分の体を数値で知るとは、自分のパフォーマンス向上につながると考えている。今後の野球に活かしていきたい」と体力測定の効果と必要性を話していました。

楽天野球団の秋田佳紀ストレングス&コンディショニングコーチからは「選手達には、仙台大での各種測定を通して、自分の体の状態を数値で知り、オフシーズンのプランニングに役立ててほしい。」「仙台大には優れた施設を利用して頂き感謝している」というお話を頂きました。

サッカー部 東北地区大学サッカーリーグ 優勝

—12年連続29回目の全日本大学サッカー選手権大会出場決定—



11月3日（土）、岩手県営運動公園陸上競技場で東北地区大学サッカーリーグ1部第8節が行われ、仙台大は岩手大に2-1で勝利し、最終節を残してリーグ優勝（8戦全勝）を果たしました。

仙台大サッカー部は、12年連続29回目の「全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）」への切符を手に入れました。

仙台大は、開始早々前半1分、いきなり先制点を奪われたまま、岩手大に守りをしっかり固められ、チャンスをモノにできず前半終了。後半も岩手大の固いDF陣に阻まれ、なかなか得点を決めることができませんとりやまよしゆきでした。しかし、後半81分に鳥山祥之さん（体育学科

2年-柏レイソルユース出）のクロスいわぶちだいすけを途中出場の岩渕大輔さん（体育学科4年-横浜FCユース出）が頭で合わせ1-1。さらに後半85分には、追加点を狙いきのうちよう

果敢に攻め上がった途中出場のDF木内瑛さん（体育学科4年-西目高校出）がヘディングシュートを決めて、2-1と逆転勝ち。苦しい試合展開でしたが、なんとか勝ちきることができました。

同点ゴールを決めた岩渕さんは「負けている状況での途中出場だったので、流れを変えたかった。強い気持ちで試合に臨めたことが良い結果につながった」と喜び、逆転ゴールを決めた木内さんは「ゴールはたまたま。次は、先発フル出場して、チームの勝利に貢献したい」と謙虚に振りました。

はちすかこうじ
J1ベガルタ仙台の特別指定選手の蜂須賀孝治主将（体育学科4年-桐生第一高校出）は、「全国（インカレ）では、チーム一丸となって一戦一戦勝利を目指して戦っていききたい。あくまでも挑戦者として臨みたい」と全日本大学サッカー選手権大会に向けて気を引き締めていました。

吉井監督が就任してから東北で3年間負けなしと、来週の最終節に勝利すれば2年連続の全勝優勝となります。全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）は12月19日（水）からはじまります。

引き続き、仙台大サッカー部への熱い応援をどうぞ宜しくお願い致します。

第2回日本学生フロアボール選手権大会 女子初優勝



左から朴澤学長、高橋主将、松浦さん、宇野澤さん、大沼さん

11月6日（火）、第2回日本学生フロアボール選手権大会<女子>で初優勝に輝いた学生達が、大会結果の報告に学長室を訪れました。

フロアボールは、スティックを使ってプラスチック製のボールを相手チームのゴールに入れて得点を競う室内で行う団体競技で、仙台大女子フロアボール部は現在25名で活動しています。

同大会の出場は、山形大・東北大・駿河台大・仙台大の4大学。初戦は、昨年の決勝で惜敗した山形大に6-0で勝利。決勝は、東北大に4-2で勝利し、初優勝を飾りました。

うのさわえり
大会最優秀選手に選ばれた宇野澤衣里さん（体育学科2年-宮城広瀬高校出）は「まさか自分が選ばれるとは思っていなかったの、正直嬉しい。少しでもフロアボールを普及させ、この面白さを広げたたかはしあかね

い」と笑みを浮かべ、高橋絢音主将（健康福祉学科3年-気仙沼高校出）は「初優勝できてよかった。大会2連覇できるようもっと力をつけて頑張りたい」と意欲を語りました。

講道館杯柔道女子52 kg級 五味奈津実さん、5位入賞

－OG田中美衣は63kg級5位、2連覇逃す－



写真提供：東建コーポレーション（株）「柔道チャンネル」
五味奈津実さんの準決勝の試合風景（写真右が五味さん）

11月10日（土）・11日（日）の2日間、「平成24年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会」が千葉ポートアリーナで開催され、女子52kg級でごみなつみ五味奈津実さん（体育学科4年－東京・藤村女子高校出）が5位入賞という好成績をおさめました。

五味さんは準決勝で敗れた後、3位決定戦に挑みましたが惜敗。しかし、体重別柔道日本一を決定する講道館杯で5位入賞は素晴らしい結果と言えるでしょう。

五味さんは、「講道館杯には4年連続出場したが、初めて勝つことができた。今回5位に入賞したことで、強化指定選手に選ばれ正直嬉しい。今後は、国際大会でも活躍できる選手になりたい」と今の心境と更なる活躍を誓いました。

また、女子63kg級の優勝候補筆頭であった本学OGのたなかみき田中美衣さん（了徳寺学園職－H22年体育学科卒－京都成安高校出）は、惜しくも5位で大会2連覇を逃しました。

同選手権大会には本学学生9名（全て女子）及び本学みやほらなおこOG2名（田中美衣さん、宮原尚子さん（秋田商業高校教－H23年体育学科卒－秋田商業高校出）の計11名が出場しました。

今大会を振り返って、仙台大女子柔道部の南條和恵監督は「オリンピック選手や日本トップクラスの選手が集う大会で、五味は高校時代、東京都大会3位が最高成績の選手。インターハイにも出場していない五味が、全日本学生チャンピオンと世界ジュニアチャンピオンという強敵を倒して5位に入賞し、結果を残した。よくやったと褒めてやりたい」と目を細め、「講道館杯において現役学生で優勝できる選手、オリンピック選手を仙台大から育てていきたい」と今後の抱負を力強く語りました。

これからも仙台大女子柔道部及びOGの活躍にどうぞご注目ください。

聖光学院高校野球部 本学OB斎藤智也監督 来訪



左から朴澤学長、斎藤監督、キーナート副学長

11月15日（木）、聖光学院高校を春夏合わせて12回、チームを甲子園に導いた聖光学院高校野球部の

さいとうともや本学OB斎藤智也監督（S62年体育学科卒－福島高校出）が学長室を訪れ、本学関係各位からの支援や声援に対する感謝と御礼が述べられ、斎藤監督は「母

校仙台大の発展のために自分にできることがあれば、協力していきたい」と話されました。その後、キーナート副学長（東北楽天ゴールデンイーグルスの初代ゼネラルマネージャー）とも挨拶を交わされました。

仙台大学来訪後、本学と同一法人である明成高校（仙台市）において、「部活動指導について」と題する講演会が開催され、62名の参加がありました。

講演の中で斎藤監督は「指導者として、子ども達の内面を鍛えることの重要性」を指摘。「聖光学院高校野球部では、子ども達の内面を鍛えるために、ミーティングに多くの時間を費やしている。子ども達の教室での顔と部活動での顔つきが同じになってきたら、競(せ)った勝負でも勝てるチームが作れるようになる」と述べられました。最後に、「子ども達には、普段の生活の中で“不動心”（物事に動じない心）という言葉の基本理念として教えている。自分の生き様が重要であり、それが打球に表れる。人生をかけてバットを振るくらいの気構えでなくてはならない」と語り、講演が締めくくられました。

第18回全日本フットサル選手権宮城県大会 初優勝



11月18日（日）、松島フットボールセンターフットサルコートで、「第18回全日本フットサル選手権宮城県大会」の準決勝と決勝が行われました。仙台大は、準決勝で社会人チームのULTIMOに4-2で勝利し決勝進出。

決勝の対戦相手は、今年9月に行われた「全日本大学フットサル大会」で第3位となった強豪東北大。

仙台大は、加賀光太郎さん（健康福祉学科4年一聖和学園高校出）が先制点を奪取。その直後に庄司亨さん（スポーツ情報マスメディア学科4年一羽黒高校出）が追加点を決め2-0。さらに加賀さんが3点目を

決め試合を有利に進めます。守りではゴールキーパーの笹生心太選手兼監督（本学専任講師）が好セーブを連発。結果、仙台大は東北大を3-0で下し、見事創部4年目での初優勝を果たしました。

決勝で先制点と東北大を突き放す3点目を決めた加賀さんは「練習の成果が出た。全員で勝ち取った優勝。」と喜び、佐藤和也主将（スポーツ情報マスメディア学科3年一黒磯高校出）は「優勝を目標に頑張ってきた。達成できてうれしい。これからもっとレベルの高い戦いが続くので、しっかりと準備していきたい。東北大会でも優勝し、全国大会に出場したい。」と意気込みを語りました。

12月15日（土）・16日（日）に地元宮城県で開催される「東北大会」への出場権を獲得した仙台大。東北大会で優勝を勝ち取れば、全国大会への出場権を獲得することになります。皆様からの応援が大きな力になります。引き続き、仙台大フットサル部への熱い応援を宜しくお願い致します。

ウェイトリフティング部 松下康亮さん、宮城県選手権大会成年男子94kg級制す



11月18日（日）に宮城県柴田農林高校で開催された「第58回宮城県ウェイトリフティング競技選手権大会」で、松下康亮さん（現代武道学科2年一柴田高校出）がスナッチ95キロ・ジャーク125キロ・トータル220キロで、成年男子94kg級を制しました。

松下さんは、柴田高校時代主将を務め、インターハイにも出場。大学でも主将を務める松下さんは「宮城県の強化指定選手に選ばれた。最低でも全日本大学対抗ウェイトリフティング選手権大会（インカレ）で入賞する力をつけ、全国で戦えるようになりたい」と意欲を述べ、「将来は、警察官を志望している。学業と部活動を両立させ、たくさんの人から応援される選手になりたい」と力強く思いを語りました。



左：伊藤重孝部長、右：松下さん

第5回アジア体操競技選手権

古谷嘉章さんがあん馬2位／鉄棒3位、小原孝之さんが鉄棒3位



左：古谷さん、右：小原さん

11月11日（日）～14日（水）まで中国の莆田市で開催された「第5回アジア体操競技選手権」の種

目別決勝で、古谷嘉章さん（体育学科1年－大阪・清風高校出）があん馬で2位（14.500点）と鉄棒で3

おはらたかゆき

（14.450点）、小原孝之さん（体育学科2年－京都・洛南高校出）が鉄棒で3位（14.450点）と大健闘しました。

古谷さんは「2種目でメダルが取れて、うれしい気持ちでいっぱい。これからも強い意志を持って練習していきたい。ユニバーシアード大会の日本代表に選ばれるように頑張りたい」と語り、小原さんは「3位は偶然。相手のミスもあり、運も良かった。自分の体操を分析して、さらにメンタル面を強化していきたい。世界選手権やオリンピックに出場することができるように努力していきたい」と今の心境と今後の決意を述べました。

日本代表のコーチとして帯同した本学の鈴木良太助教は「古谷と小原は、大きな大会で結果を残した。今後につながる大会だった」と振り返り、「世界で通用する選手に成長してほしい」と期待を込めて語りました。

ボブスレー部 黒岩俊喜さん、 「アメリカンズカップ」日本チームボブスレー4人乗りで3位に貢献

11月17日（土）（日本時間18日）にカナダのカルガリーで行われた「アメリカンズカップ」ボブスレー4人乗り

した黒岩俊喜さん（運動栄養学科1年－神奈川・橘高校出）がブレイカーとして貢献しました。

1回戦で55秒44のタイムを出し、3位につけた日本チーム。2回戦で55秒64のタイムを出し、合計タイムが1分51秒08、そのまま3位と大健闘。優勝はアメリカ。2位はカナダという結果となりました。

黒岩さんは「ボブスレーは、大学からはじめての競技。海外遠征も初めての経験。スタート地点に過ぎない。」と浮かれた様子はなく、「体重を現在の80kgから10kg～20kg増やしたい。経験を積み重ねてオリンピックに出場したい」と気を引き締める。

高校時代に100m10秒77の自己ベストを持つ黒岩さん。これからも黒岩俊喜さんの活躍にご注目ください。



サッカーJ2水戸ホーリーホック 本学OB細川淳矢選手が来訪



ほそかわじゅんや

11月13日（火）に、本学OBの細川淳矢選手（H18年体育学科卒ー埼玉・武南高校出）が学長へ挨拶のため来訪しました。

前所属チームサッカーJ1ベガルタ仙台を任期満了で退団後、トライアウトで負傷してしまった細川選手ですが、リハビリ期間を経てJ2水戸ホーリーホックへ入団を果たしました。リハビリ中は母校である本学サッカー場や第3体育館トレーニングセンターで筋力トレーニングをしたりと、地道な努力を重ねてきました。

現在、細川選手は豊富な経験を武器に入団後すぐに得点を決めるなどチームに貢献されています。今後も是非細川選手の応援をよろしくお願い致します。

なお、写真で細川選手の着用しているユニフォームは、本学クラブハウス（KMCH）へ寄贈され、リラックスルームに展示されていますので、是非ご覧ください。